

# 挑戦者として 存在感のある会社を目指して



代表取締役社長 小野 眞一  
Shinichi Ono

この度、FBテクニカルニュース2017年号を刊行するにあたり、平素より弊社の製品を御愛顧戴いているユーザーの皆様、そしてこのテクニカルニュースを通じてバッテリーの技術動向に常に关心をお寄せ戴いている読者の皆様に、この6月から現徳山会長より経営をバトンタッチされました新任社長として、御挨拶、並びに所信を述べさせていただきます。

## ■挑戦者として、社会と共にさらなる成長を目指します

当社は、2016年5月に中期経営計画「2018年中期ビジョン(2016-18年)」を発表いたしました。この中期経営計画の最終年度である2018年度(2019年3月期)に向け、「事業拡大による売上増」「効率化、合理化による利益率増」「海外拠点拡大による海外売上高比率増」の3つのキーワードに沿って、ダイナミックな成長を追求しています。

2016年度は、売上高が553億円、営業利益が29億円と、前年度比で増収増益となりました。中期経営計画および長期ビジョン「Dynamic Innovation 2020」の第2フェーズ「打って出る5年間」のスタートとして、既存事業の強化及び技術開発に注力するとともに、ベトナムの蓄電池メーカー DRY CELL AND STORAGE BATTERY JOINT STOCK COMPANYの株式取得やタイの風力発電 I-WIND社との成約合意など、海外展開にも積極的に取り組んでまいりました。

私たちは引き続き、電池・電源分野のエキスパートとしてお客様や社会が求める“価値”を把握し、それらに答えていくことを通じて、社会課題を解決し、社会と当社グループ双方の持続可能な発展を実現したいと考えています。

足もとの財務計画の達成はもちろんのこと、長期経営ビジョン達成と、その先につながる戦略を見極める重要な期間であるという認識に基づき、全社が一丸となってダイナミックに成長し続けていくことで、企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

## ■長期ビジョンに対する考え

当社は、「Dynamic Innovation 2020」という長期ビジョンを掲げ、2020年度には「売上高980億円、営業利益90億円、海外売上高比率60%」を達成しようと、各種取組みを推進しています。

しかし、2017年度の外部向け業績予想値は「売上高620億円、営業利益40億円」と、まだまだ道半ばといった状況です。これから4年間で、大きく歩を進めるためには、我々経営陣とともに、従業員一人ひとりが仕事力(仕事の効率・能力・スピードなど)を高めて、絶えずイノベーション続け、高い新製品化率を維持してこそ末永い企業の存続が約束されるものと確信しております。このためには、技術開発が重要であるということ言うまでもありません。

これまでも、ウルトラバッテリー、非常・防災用マグネシウム空気電池「MgBox(マグボックス)」、次世代リチウムイオン電池など、新規事業の創出にも取り組んでまいりました。今後は、さらにその先の技術、10年後、20年後の世界に必要とされるであろう「見えないテーマ」の発掘に努め、「オンリー1」、「ナンバー1」の製品を開発して参る所存です。

これからも、環境に配慮した企業活動を継続しつつ、積極的な技術開発に努め、社会に貢献できる存在感のある会社を目指して参りますので、引き続きご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。